

## **[西宮渡辺病院 麻酔科]**

### **【研修内容と特徴】**

麻酔科としての全身管理、各種手技を経験することは勿論であり、それを通じて安全な患者管理を行うことの重要性を身につける。

### **【研修の実際】**

#### ① 一般目標

周術期管理の中での麻酔科の役割を通して、手術室内での患者の権利を守る医療の実践者として行動することを学ぶ。

#### ② 行動目標

標準的な全身麻酔法について学び、呼吸・循環管理、輸液療法、術前患者評価を身につける。また気管挿管、中心静脈確保などの手技を身につける。

#### ③ 方略

周術期の中での患者評価、身体所見、一般検査所見などから適切な麻酔管理法を導き、その管理に必要な麻酔戦略を構築する能力を身につける。

### **【教育に関する行事】**

手術室での全身麻酔管理  
周術期患者の術前訪問  
術前麻酔カンファレンス  
学会活動

### **【研修評価】**

基本的に EPOC で評価する

### **指導医**

麻酔科部長：垣内 英樹

### **研修実施責任者**

院長：佐々木 健陽

## **[西宮渡辺病院 整形外科]**

### **【研修内容と特徴】**

整形外科では、骨折などの外傷をはじめ、腰椎椎体骨折、腰部脊柱管狭窄症、椎間板ヘルニアなどの脊椎疾患、骨粗鬆症など幅広い領域を治療している。

また、人工関節センターでは、変形性関節症や関節リウマチ、大腿骨頭壊死、顎部骨壊死などに対し全人工膝関節、単顆型人工膝関節、全人工股関節の手術をしている。

- 1) 外来は患者さんとの一番最初の接点であり、問診および基本的な診療を行い緊急性の有無を見分ける能力を取得する。  
すなわち更なる検査のオーダーや入院の可否、手術適応等もこの時点で決定することが求められ、骨折・脱臼の整復・ギブス固定などの技術を身につける必要がある。
- 2) 手術適応患者に関しては、手術方法の選択に必要な知識を身につけ、患者に十分に説明し、治療方法を選択していただくための能力を身につける。
- 3) ギブス包帯法や手術手技などの技術を身につける。

### **【研修の実際】**

- 1) 研修期間は研修者の希望に応じて2～3か月間とする。
- 2) 外来診療：問診、理学所見の取り方、X線の読影と治療計画の選択、患者への説明方法を見習い、実施する。また、救急患者への対応も習得する。
- 3) 病棟診療：入院患者を受け持ち、治療計画を立て経過観察を行う。  
症例検討会で報告し、部長回診にて更なる指導を受ける
- 4) 手術研修：受け持ち患者を中心に手術助手または術者として指導を受ける
- 5) その他：超音波検査や造影検査の手技を取得する。

### **【教育に関する行事】**

カンファランスの開催

抄読会の開催

学会活動

### **指導医**

院長・部長：佐々木 健陽

部長・人工関節センター長：福岡 慎一

## 研修実施責任者

院長：佐々木 健陽